

#3
LTYSON
PATENT
81800.0176
10/10/02

Express Mail Label No. EL 713 632 345 US



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of:

Yoshifumi TANIMOTO

Serial No: Not assigned

Filed: January 10, 2002

For: RELAY SERVER, COMMUNICATION
SYSTEM AND FACSIMILE SYSTEM

Art Unit: Not assigned

Examiner: Not assigned

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT

Box PATENT APPLICATION
Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Dear Sir:

Enclosed herewith are certified copies of Japanese patent application Nos. 2001-007072 filed January 15, 2001 and 2001-007656 filed January 16, 2001, from which priority is claimed under 35 U.S.C. § 119 and Rule 55.

Acknowledgment of the priority document(s) is respectfully requested to ensure that the subject information appears on the printed patent.

Respectfully submitted,

HOGAN & HARTSON L.L.P.

By:

Lawrence J. McClure
Lawrence J. McClure
Registration No. 44,228
Attorney for Applicant(s)

Date: January 10, 2002

500 South Grand Avenue, Suite 1900
Los Angeles, California 90071
Telephone: 213-337-6700
Facsimile: 213-337-6701

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

J1011 U.S. Pro
2010/045897
01/10/2010
01/10/2010

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2001年 1月15日

出願番号

Application Number:

特願2001-007072

出願人

Applicant(s):

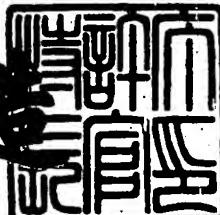
村田機械株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年12月28日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3111753

【書類名】 特許願
【整理番号】 38361157
【提出日】 平成13年 1月15日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 H04L 12/46
【発明者】
【住所又は居所】 京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機械株式会社
本社工場内
【氏名】 谷本 好史
【特許出願人】
【識別番号】 000006297
【氏名又は名称】 村田機械株式会社
【代理人】
【識別番号】 100101948
【弁理士】
【氏名又は名称】 柳澤 正夫
【電話番号】 (045)744-1878
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 059086
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9807282
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 中継サーバおよび通信システム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のネットワーク装置および他の中継サーバと通信可能な通信手段と、前記通信手段により通信可能な前記ネットワーク装置の接続情報を保持する接続情報保持手段を有し、前記通信手段は、前記ネットワーク装置からの接続要求に基づいて前記接続情報を参照し必要に応じて他の中継サーバを介して他のネットワーク装置との通信を中継することを特徴とする中継サーバ。

【請求項2】 前記通信手段は、他の中継サーバの前記接続情報を受け取つて前記接続情報保持手段に格納することを特徴とする請求項1に記載の中継サーバ。

【請求項3】 複数のネットワーク装置及び複数の中継サーバがネットワークによって接続された通信システムにおいて、前記ネットワーク装置は、いずれかの前記中継サーバと通信路を確立し、他のネットワーク装置との接続要求を行つて通信を行うものであり、中継サーバは、前記ネットワーク装置からの前記接続要求に基づいて必要に応じて他の中継サーバを介して他のネットワーク装置との通信を中継することを特徴とする通信システム。

【請求項4】 前記中継サーバは、それぞれの中継サーバにおいて通信可能に接続されている前記ネットワーク装置の接続情報を取得していずれの中継サーバへ中継するかを決定することを特徴とする請求項3に記載の通信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、複数のネットワーク装置及び複数の中継サーバがネットワークによって接続された通信システムと、そのような通信システムにおいて利用して好適な中継サーバに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

図4は、一般的なインターネットを用いたシステムの一例を示す説明図である

。図中、1, 2はローカルシステム、3はインターネット、11, 12, 21, 22は端末、13, 23はゲートウェイ、14, 24はLANである。ローカルシステム1は、端末11、端末12、ゲートウェイ13などがLAN14により接続されて構成されている。ゲートウェイ13は、LAN14とともにインターネット3に接続されており、LAN14上の端末11, 12など、各種のネットワーク機器からインターネットを利用することができます。またローカルシステム2も同様であり、端末21、端末22、ゲートウェイ23などがLAN24により接続されて構成されている。ゲートウェイ23は、LAN24とともにインターネット3に接続されており、LAN24上の端末21, 22など、各種のネットワーク機器からインターネットを利用することができます。もちろん、それぞれのローカルシステム1, 2において、他の様々な機器がLAN14, 24により接続されていてよい。

【0003】

このようなシステムにおいて、通常はローカルシステム1, 2に対してはグローバルIPアドレスは1ないし複数個が割り当てられるが、ローカルシステム1, 2内のそれぞれのネットワーク機器にグローバルIPアドレスが割り当てられるわけではない。それぞれのローカルシステム1, 2内の各ネットワーク機器にはプライベートなIPアドレスが割り振られており、ゲートウェイ13, 23によってNATやIPマスカレードなどの機能を用いてプライベートなIPアドレスとグローバルなIPアドレスとの変換を行っている。このようなIPアドレスの変換機能を有するゲートウェイ13, 23を用い、例えばローカルシステム1では端末11, 12はゲートウェイ13を介してインターネット3を利用することになる。またローカルシステム2においても、端末21, 22はゲートウェイ23を介してインターネット3を利用することになる。

【0004】

またゲートウェイ13, 23あるいは別のネットワーク装置等においてはファイアウォールやプロキシサーバなどの機能を有し、これらの装置を介して各端末がインターネット3を利用するような構成も利用されており、システムの安全性を向上させている。

【0005】

ここで、例えばインターネット3からローカルシステム1内の端末11に対してもアクセスしようとすると、ゲートウェイ13のグローバルIPアドレスをすることはできるものの、端末11のプライベートなIPアドレスを知ることはできない。従って、通常の接続方法ではローカルシステム1の外部から端末11をアクセスすることはできない。またゲートウェイ13のファイアウォールの機能などによって、アクセスを受け付けるサイトが制限されている場合もある。もちろん、端末12についても同様であるし、ローカルシステム2内の端末21, 22についても同様である。

【0006】

さらに、ローカルシステム1内の端末11や端末12、ローカルシステム2内の端末21や端末22は、通常はクライアント機能しか有しておらず、他のネットワーク機器からの情報を受け付けるサーバの機能を有していない。そのため、端末11, 12, 21, 22から他のネットワーク機器にアクセスしない限り、他のネットワーク機器からこれらの端末に情報を送信することができない。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、上述した事情に鑑みてなされたもので、インターネットからローカルシステム内の端末への接続、あるいは異なるローカルシステム内の端末間の接続を複数の中継サーバを介して行うことができる通信システム、および、そのような通信システムにおいて利用して好適な中継サーバを提供することを目的とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明は、中継サーバにおいて、複数のネットワーク装置および他の中継サーバと通信可能な通信手段と、前記通信手段により通信可能な前記ネットワーク装置の接続情報を保持する接続情報保持手段を有し、前記通信手段は、前記ネットワーク装置からの接続要求に基づいて前記接続情報を参照し必要に応じて他の中継サーバを介して他のネットワーク装置との通信を中継することを特徴とするも

のである。このように、中継サーバに対してネットワーク装置が通信可能に接続されていることによって、ローカルシステム内のネットワーク装置に対する通信を可能とする。さらに、ネットワーク装置が異なる中継サーバに接続されていても、中継サーバ間で中継を行うことによって、異なる中継サーバに接続されているネットワーク装置間での通信が可能になる。

【0009】

なお、ネットワーク装置から接続要求された通信相手先のネットワーク装置が接続されている中継サーバは、接続要求時に指定したり、予めそれぞれの中継サーバに設定されているほか、前記通信手段が外部より他の中継サーバの接続情報を受け取って接続情報保持手段に格納するように構成することができる。外部から接続情報を受け取ることによって、動的な管理が可能になる。

【0010】

また本発明は、複数のネットワーク装置及び複数の中継サーバがネットワークによって接続された通信システムにおいて、前記ネットワーク装置は、いずれかの前記中継サーバと通信路を確立し、他のネットワーク装置との接続要求を行って通信を行うものであり、中継サーバは、前記ネットワーク装置からの前記接続要求に基づいて必要に応じて他の中継サーバを介して他のネットワーク装置との通信を中継することを特徴とするものである。このような通信システムでは、いずれかの中継サーバとネットワーク装置が通信路を確立していることによって、中継サーバとネットワーク装置との間の通信が可能である。これを利用し、中継サーバ間の通信を行って、ネットワーク装置間の通信を中継することによって、異なる中継サーバに接続されているネットワーク装置間での通信が可能になる。

【0011】

なお、ネットワーク装置から接続要求された通信相手先のネットワーク装置が接続されている中継サーバは、接続要求時に指定したり、予めそれぞれの中継サーバに設定されているほか、中継サーバが他の中継サーバの接続情報を取得して、いずれの中継サーバへ中継するかを決定するように構成することができる。中継サーバが他の中継サーバの接続情報を取得することによって、動的な管理が可能になる。

【0012】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明の中継サーバを含む通信システムの実施の一形態を示す構成図である。図中、図4と同様の部分には同じ符号を付して重複する説明を省略する。4, 5は中継サーバ、41は通信部、42は接続情報保持部である。中継サーバ4および中継サーバ5は、インターネット3に接続されており、それぞれグローバルIPアドレスを有している。このグローバルIPアドレスに対するネットワーク機器からのログイン要求を受け付け、そのネットワーク機器との接続を維持して通信路を確保しておく。また、中継サーバ4と中継サーバ5との間も通信路が確保されているものとする。ネットワーク機器はいずれの中継サーバに対して接続していくてもよい。図1に示す例では、ローカルシステム1内の端末11や端末12がゲートウェイ13を介して中継サーバ4に、また、ローカルシステム2内の端末21や端末22が中継サーバ5に、それぞれ通信路が確保されている例を示している。なお中継サーバ4, 5は、それぞれ、複数のネットワーク機器との間で接続を維持しておくことができる。

【0013】

中継サーバ4, 5は、このようなネットワーク機器との通信路を用いて、インターネットから、あるいは他のローカルシステムのネットワーク機器からのデータを中継して通信を行う。また、ネットワーク機器から他のネットワーク機器などに対する接続要求を受けると、接続先が当該中継サーバとの通信路を確保していれば、その通信路を用いて両者間のデータを中継し、通信を行う。接続先が他の中継サーバと通信可能に接続されている場合には、接続要求を行ったネットワーク機器と他の中継サーバとの間でデータを中継し、さらにデータが転送された他の中継サーバで接続先のネットワーク機器にデータを中継し、ネットワーク機器間における通信を実現する。

【0014】

例えば中継サーバ4からローカルシステム1内のゲートウェイ13に対しては接続可能であるが、端末11や端末12については接続することができない。しかし、中継サーバ4のグローバルIPアドレスを使用すれば、端末11や端末1

2からゲートウェイ13を介して中継サーバ4に接続することは可能である。従って、端末11や端末12から中継サーバ4に対してログイン要求を行うことによって、中継サーバ4とログイン要求を行った端末11あるいは端末12との間の双方向の通信が可能になる。同様に、中継サーバ5からローカルシステム2内のゲートウェイ23に対しては接続可能であるが、端末21や端末22については接続することができない。しかし、中継サーバ5のグローバルIPアドレスを使用すれば、端末21や端末22からゲートウェイ23を介して中継サーバ5に接続することは可能である。従って、端末21や端末22から中継サーバ4に対してログイン要求を行うことによって、中継サーバ5とログイン要求を行った端末21あるいは端末22との間の双方向の通信が可能になる。さらに中継サーバ4と中継サーバ5とが通信を行うことによって、端末11や端末12と、端末21または端末22とが、中継サーバ4および中継サーバ5を介して通信を行うことができる。

【0015】

中継サーバ4は、例えば通信部41および接続情報保持部42を含んで構成することができる。通信部41は、インターネット3を介して複数のネットワーク機器および1ないし複数の中継サーバと通信可能である。そして通信部41は、通信可能に接続されているネットワーク機器から接続要求情報を受け取ると、その接続要求情報に従って、接続先のネットワーク機器あるいは他の中継サーバとの間で通信を行い、接続を要求したネットワーク機器との間でのデータ転送を中継する。例えば端末11がそれぞれ通信部41により通信可能に接続されており、中継サーバ5に接続されている端末21との接続要求情報を受け取ると、端末11と通信部41との間でデータ転送を行うとともに、通信部41と中継サーバ5との間でデータ転送を行う。さらに中継サーバ5で端末21との間の通信を行うことによって、実質的に端末11と端末21との間での通信を実現する。もちろん、中継サーバ4に接続されている2台のネットワーク機器間での通信も可能である。また、1台のネットワーク機器と複数の接続を確保しておくことも可能であり、1台のネットワーク機器が複数の接続を用いて複数台のネットワーク機器との通信を行うことが可能である。

【0016】

なお、中継サーバ5の構成は中継サーバ4と同様に構成することができる。もちろん、中継サーバは2台に限らず、さらに多くの中継サーバがインターネット上に設けられていてよい。また、それぞれの中継サーバは、すべての中継サーバと接続できなくてもよく、1ないし複数の中継サーバを介して目的の中継サーバと接続される接続形態であってもよい。

【0017】

接続情報保持部42は、通信部41により通信可能なネットワーク機器の接続情報を保持している。接続情報は、例えばユーザIDや接続状態などの情報を含んでおり、中継サーバを介して通信可能なユーザ（ネットワーク機器）の管理や、通信状態の管理などを行うことができる。図2は、接続情報保持部42が保持している接続情報を含む情報の一例の説明図である。図2に示す例では、中継サーバに固有の情報としてサーバ名、IPアドレスなどの情報を含むとともに、ユーザID、タイプ、属性、状態などの情報を含む接続情報と、その接続情報の最終更新日時などの情報を接続情報保持部42に保持させている。タイプはネットワーク機器の種別の情報、例えばクライアント端末であるのかFAXやプリンタなどの装置であるかなどの情報を保持することができる。属性は、タイプの情報に付随した種々の情報を保持することができ、例えば図2に示す例ではファイル単位の送受信を行う旨を示す属性を付した例を示している。状態の情報としては、例えばログオン中であるか否かや、ログオンした後に他のネットワーク機器と通信を行っているか否かなどを示す情報を保持することができる。もちろん、接続情報として、このほかにも各種の情報を含んでいてよい。

【0018】

図2に示す接続情報は、当該中継サーバに接続されるネットワーク機器について、予め登録しておくことができる。また、他の中継サーバに接続されているネットワーク機器の接続情報についても取得して接続情報保持部42に保持させておくことができる。これによって、他の中継サーバに接続されているネットワーク機器についても、接続先のネットワーク機器について、その接続状態や、いずれの中継サーバに対して通信を中継するのかなどといった情報を得ることができ

る。

【0019】

図3は、本発明の中継サーバを含む通信システムの実施の一形態における通信手順の一例を示すシーケンス図である。図3に示す通信手順は、TCP/IPを利用して実行され、中継サーバとの接続、接続の維持、端末への接続要求、端末へのデータ転送、端末との接続終了、中継サーバとの接続終了等を行うものである。ここでは一例として、図1におけるローカルシステム1内の端末11とローカルシステム2内の端末21との間で通信を行う場合について示している。予め、中継サーバ4に対して端末11をユーザとして登録し、また中継サーバ5に対して端末21をユーザとして登録しておく。登録の情報としては、例えば図2に示した接続情報の各項目の情報とすることができる。このほか、認証のためにパスワードなどを登録しておくとよい。

【0020】

端末11は、例えば起動後あるいはオペレータによって指示されると、(1)において、ゲートウェイ13を介して中継サーバ4に接続し、ログインして中継サーバ4とのTCP/IPコネクション(接続1)を確立する。端末11はローカルシステム1内のネットワーク機器であるため、中継サーバ4から直接通信を行うことはできないが、クライアントである端末11からのログインにより中継サーバ4への接続は可能である。TCP/IPコネクションは双方向型のデータ通信が可能であるので、端末11から中継サーバ4へ、また中継サーバ4から端末11への通信を行うことができる。

【0021】

接続1が確立した後、(2)において端末11はユーザIDを中継サーバ4に送る。中継サーバ4は、受け取ったユーザIDが接続情報保持部42に接続情報として保持されているかを調べる。なお、端末11のユーザIDとともに、例えばパスワードなどによって認証を行うとよい。この認証によって、不特定の第3者との接続を回避し、安全性を確保することができる。もし接続情報が登録されていなかったり、認証に失敗した場合には、中継サーバ4は端末11に対して否定応答を行うか、あるいはそのまま接続1を切断する。認証が成功したら、(3)

)において肯定応答を行うとともに、端末11の接続情報をログインの状態に変更する。以後、接続1が切断されるまで、接続1を維持するように制御する。

【0022】

中継サーバ4とのTCP/IPコネクションが確立し、認証が得られたら、その接続（接続1）を保持しておくために、(4)において定期的に中継サーバ4に対し接続保持のコマンドを送出し、(5)において中継サーバ4からの確認の応答を得る。これによって接続を保持しておくとともに、中継サーバが正常に稼働していることの確認を行う。

【0023】

同様に端末21は、(1')において、ゲートウェイ23を介して中継サーバ5に接続し、ログインして中継サーバ5とのTCP/IPコネクション（接続2）を確立する。端末21もローカルシステム2内のネットワーク機器であるため、中継サーバ5から直接通信を行うことはできないが、クライアントである端末21からのログインにより中継サーバ5への接続は可能である。接続2によって、端末21から中継サーバ5へ、また中継サーバ5から端末21への通信を行うことができる。

【0024】

接続2が確立した後、(2')において端末21はユーザIDを中継サーバ5に送る。中継サーバ5は、受け取ったユーザIDが登録されているか否かを調べる。なお、端末21のユーザIDとともに、例えばパスワードなどによって認証を行うとよい。この認証によって、不特定の第3者との接続を回避し、安全性を確保することができる。もし接続情報が登録されていなかったり、認証に失敗した場合には、中継サーバ5は端末21に対して否定応答を行うか、あるいはそのまま接続2を切断する。認証が成功したら、(3')において、肯定応答を行うとともに、端末21の接続情報をログインの状態に変更する。以後、接続2が切断されるまで、接続2を維持するように制御する。

【0025】

中継サーバ5とのTCP/IPコネクションが確立し、認証が得られたら、その接続（接続2）を保持しておくために、(4')において定期的に中継サーバ

5に対し接続保持のコマンドを送出し、(5')において中継サーバ5からの確認の応答を得る。これによって接続を保持しておくとともに、中継サーバが正常に稼働していることの確認を行う。

【0026】

なお、端末11と中継サーバ4との接続と、端末21と中継サーバ5との接続は、両者の通信前であればいつ行ってもよい。また、両者の通信時まで両者の接続が維持されいている必要がある。

【0027】

端末11から端末21に接続したいという要求が発生すると、(6)において、端末11は中継サーバ4に対して接続したい端末21のユーザIDを指定して接続要求を行う。なお、接続先となる端末21のユーザIDは、予め取得しておくか、あるいは中継サーバ4からログイン中のユーザの一覧などによって確認して指定するなど、任意の方法で指定することができる。また、端末21が接続されている中継サーバは、端末11から端末21のユーザIDとともに指定したり、あるいは、中継サーバ4においてユーザIDから自動的に取得することができる。中継サーバ4において自動的に他の中継サーバを割り出す場合には、他の中継サーバから予め接続情報を取得しておいたり、他の中継サーバやデータベースサーバ等に対して問い合わせるなど、種々の方法によって、転送すべき中継サーバを割り出すことが可能である。なお、中継サーバ4は、指定されたユーザIDに対応する端末21が接続されている中継サーバが割り出せなかった場合には、エラーの応答を端末11に対して返す。

【0028】

中継サーバ4は、接続要求によって指定された端末21が接続される中継サーバ5を特定したら、(7)において、特定した中継サーバ5に対して端末21への接続要求を送る。中継サーバ5は、中継サーバ4から転送されてきた接続要求を受け取り、指定されたユーザIDに対応する端末21の接続の有無を判定する。端末21が登録されていなかったり、ログインされていない場合や、既に通信中で空きの接続が存在しない場合など、通信を行うことができない場合には、エラーの応答を中継サーバ4に返す。この場合、中継サーバ4はエラーの応答を端

端末11に中継する。端末21がログイン状態にあり、通信可能であれば、(8)において、端末21に対して接続要求がある旨の情報と接続を要求している端末11のユーザIDを含む接続要求通知を送信する。

【0029】

端末21は、接続要求通知の送信に用いられた接続（接続2）が端末11との接続に使用されていることを記憶して、(9)において受け入れ可能な応答を返す。なお、接続を拒否する場合はエラーを返す。中継サーバ5は、(10)において、端末21からの応答を中継サーバ4に転送する。このとき、中継サーバ5は、端末21からの応答が受け入れ可能である場合には、接続2を端末21との通信に使用するものとして記憶するとともに、中継サーバ4とのコネクションを通じて接続2との通信を中継することを記憶する。また中継サーバ4は、(11)において、中継サーバ5から転送されてきた端末21からの応答を端末11に対して返す。このとき、中継サーバ4は、端末21からの応答が受け入れ可能である場合には、端末11からの接続要求を受けた接続（接続1）を端末11との通信に使用するものとして記憶するとともに、中継サーバ5とのコネクションを通じて接続1との通信を中継することを記憶する。さらに、端末21からの応答を受け取った端末11では、受け入れ可能な応答を受け取った場合には、使用している接続（接続1）を端末21との通信に使用するものとして記憶する。

【0030】

このようにして端末11と端末21との間で通信を行うことを確認した後、(17)以降において実際にデータを送信することになる。なお、図3に示す例では、端末11と端末21との間の通信を行うことが決定された後に、その他のネットワーク機器からの接続要求を受けたり、他のネットワーク機器への接続要求を行うために、それぞれ、新しいTCP/IPコネクションを中継サーバ4、5に確立する。すなわち、端末11は(12)において中継サーバ4にログインして中継サーバ4とのTCP/IPコネクション（接続3）を確立し、(13)において端末11はユーザIDを中継サーバ4に送る。中継サーバ4は、受け取ったユーザIDなどに基づいて端末11の認証を行い、(14)において応答を返す。そしてこの接続3を維持するため、定期的に(15)において端末11から

中継サーバ4へ接続保持コマンドを送信し、中継サーバ4は(16)において応答を端末11に返す。同様に端末21は(12')において中継サーバ5にログインして中継サーバ5とのTCP/IPコネクション(接続4)を確立し、(13')において端末21はユーザIDを中継サーバ5に送る。中継サーバ5は、受け取ったユーザIDなどに基づいて端末21の認証を行い、(14')において応答を返す。そしてこの接続4を維持するため、定期的に(15')において端末21から中継サーバ5へ接続保持コマンドを送信し、中継サーバ5は(16')において応答を端末21に返す。なお、このような空きの接続を確保しておく必要がなければ、(12)～(16)あるいは(12')～(16')の手順は必要ない。また、既に複数の接続を確保している場合も、これらの手順を行わなくてもよい。

【0031】

上述の(6)～(11)によって端末11と端末21との間で通信を行うことを確認したら、(17)において、端末11は中継サーバ4に対して接続1を用いて端末21へ送るデータを送信する。中継サーバ4は、端末11からのデータを受け取り、(18)において、受け取ったデータを中継サーバ5に転送する。中継サーバ5は、中継サーバ4から転送されてきたデータを受け取り、(19)において、接続2を用いて端末21へ送信する。端末21は、中継サーバ4から接続2を用いて送られてきた端末11からのデータを受け取り、(20)において端末11に対する応答を中継サーバ5に対して送信する。中継サーバ5は、(21)において、端末21が送信した端末11への応答を中継サーバ4に転送する。中継サーバ4は、中継サーバ5から転送されてきた端末21から端末11に対する応答を受け取り、受け取った応答を、(22)において接続1を用いて端末11へ送信する。

【0032】

このようにして、端末11と中継サーバ4との間の接続1と、中継サーバ4と中継サーバ5とのコネクションと、端末21と中継サーバ5との間の接続2とを用い、中継サーバ4および中継サーバ5でデータを中継することによって、端末11と端末21との間の通信を行うことができる。なお、(17)～(22)に

よる端末1 1 から端末2 1 へのデータ転送は、複数回繰り返されてもよい。また、端末2 1 から端末1 1 へのデータ転送が行われてもよい。

【0033】

端末1 1 と端末2 1 との間のデータ転送が終了したら、端末1 1 あるいは端末2 1 から終了通知を行う。ここでは端末1 1 から行うものとし、(23)において端末1 1 は端末2 1 に対する終了通知を、接続1 を使用して中継サーバ4 に対して送信する。中継サーバ4 は、端末1 1 から受け取った端末2 1 への終了通知を、(24)において中継サーバ5 へ転送する。中継サーバ5 は、中継サーバ4 から転送されてきた端末2 1 への終了通知を受け取り、その終了通知を(25)において接続2 を使用して端末2 1 へ送信する。終了通知を送信した端末1 1 は、(26)において、接続1 が空きになったことを示す開放通知を中継サーバ4 へ送信する。また終了通知を受け取った端末2 1 も、(26')において、接続2 が空きになったことを示す開放通知を中継サーバ5 へ送信する。これによって中継サーバ4 は、接続1 が端末1 1 と端末2 1 との間の通信用ではなくなり、空きになったことを記憶する。また中継サーバ5 は、接続2 が端末1 1 と端末2 1 との間の通信用ではなくなり、空きになったことを記憶する。なお、この例では終了通知に対する応答を行っていないが、応答を返信するようにしてもよい。

【0034】

このようにして開放された接続1 および接続2 は、(4)、(5) または(4')、(5') で示したように接続保持コマンドとその応答を定期的に行って、端末1 1 と中継サーバ4 との間、および、端末2 1 と中継サーバ5 との間の接続を保つ。

【0035】

なお、この時点では端末1 1 と中継サーバ4 との間では接続1 と接続3 が確保されている。同様に、端末2 1 と中継サーバ5 との間では接続2 と接続4 が確保されている。そのままでもよいし、接続1 および接続2 の解放時にこれらの接続については切断してもよい。もちろん、接続1 および接続2 を存続させ、接続3 および接続4 を切断してもよい。

【0036】

端末11が電源を切断する場合や、中継サーバ4への接続をやめる場合には、(27)において、端末11は中継サーバ4に対してログアウトを通知する。このとき、複数の接続が確保されている場合には、いずれの接続を用いて行ってよい。そして、端末11は中継サーバ4との接続を切断する。この例では(28)において接続1を、(29)において接続3を切断して終了する。中継サーバ4は、端末11からのログアウトの通知を受け、端末11のログアウトを認識して端末11との接続(接続1, 3)を切断する。なお、端末21においても中継サーバ5に対して同様にしてログアウトを行うことができる。

【0037】

上述のような手順を実行することによって、それぞれあるいは一方がローカルシステム内のネットワーク機器である場合でも、通信を行うことが可能になる。また、それぞれのネットワーク機器が別の中継サーバに接続されている場合でも、支障なく通信を行うことができる。

【0038】

なお、上述のような中継サーバ4との接続、接続の維持、端末への接続要求、端末へのデータ送信、端末との接続終了、中継サーバとの接続終了を行うための手順は、上位で動作するアプリケーションプロトコルがやりとりするコマンドやデータに対しては透過性を保ち何の影響も与えないように構成することが可能であり、既存のアプリケーションプロトコルをそのまま用いて通信を行うことが可能である。

【0039】

上述の例では、接続要求元のネットワーク機器が接続されている中継サーバと、接続先のネットワーク機器が接続されている中継サーバとが直接通信を行うことが可能な場合について示した。しかし本発明はこのような構成に限られるものではなく、例えば2つの中継サーバの間に1ないし複数の中継サーバが介在してもよい。この場合、接続要求元のネットワーク機器が中継経路を指定したり、あるいはそれぞれの中継サーバがルーティングを行えばよい。もちろん、同じ中継サーバに接続されているネットワーク機器間で通信を行う場合には、当該中継サーバがデータの中継を行うのみで実現可能である。

【0040】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明によれば、ローカルシステム内のネットワーク機器から中継サーバへ予め接続して通信路を確保しておいて、この通信路を用いてデータの中継を行うので、インターネットからローカルシステム内のネットワーク機器へのデータ転送、あるいは異なるローカルシステム内のネットワーク機器間のデータ転送を実現することができる。また、中継サーバ間の通信を行うことによって、必要に応じて他の中継サーバを介して他のネットワーク装置との通信を中継することができるので、異なる中継サーバに接続されているネットワーク機器間での通信を支障なく行うことができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の中継サーバを含む通信システムの実施の一形態を示す構成図である。

【図2】

接続情報保持部が保持している接続情報を含む情報の一例の説明図である。

【図3】

本発明の中継サーバを含む通信システムの実施の一形態における通信手順の一例を示すシーケンス図である。

【図4】

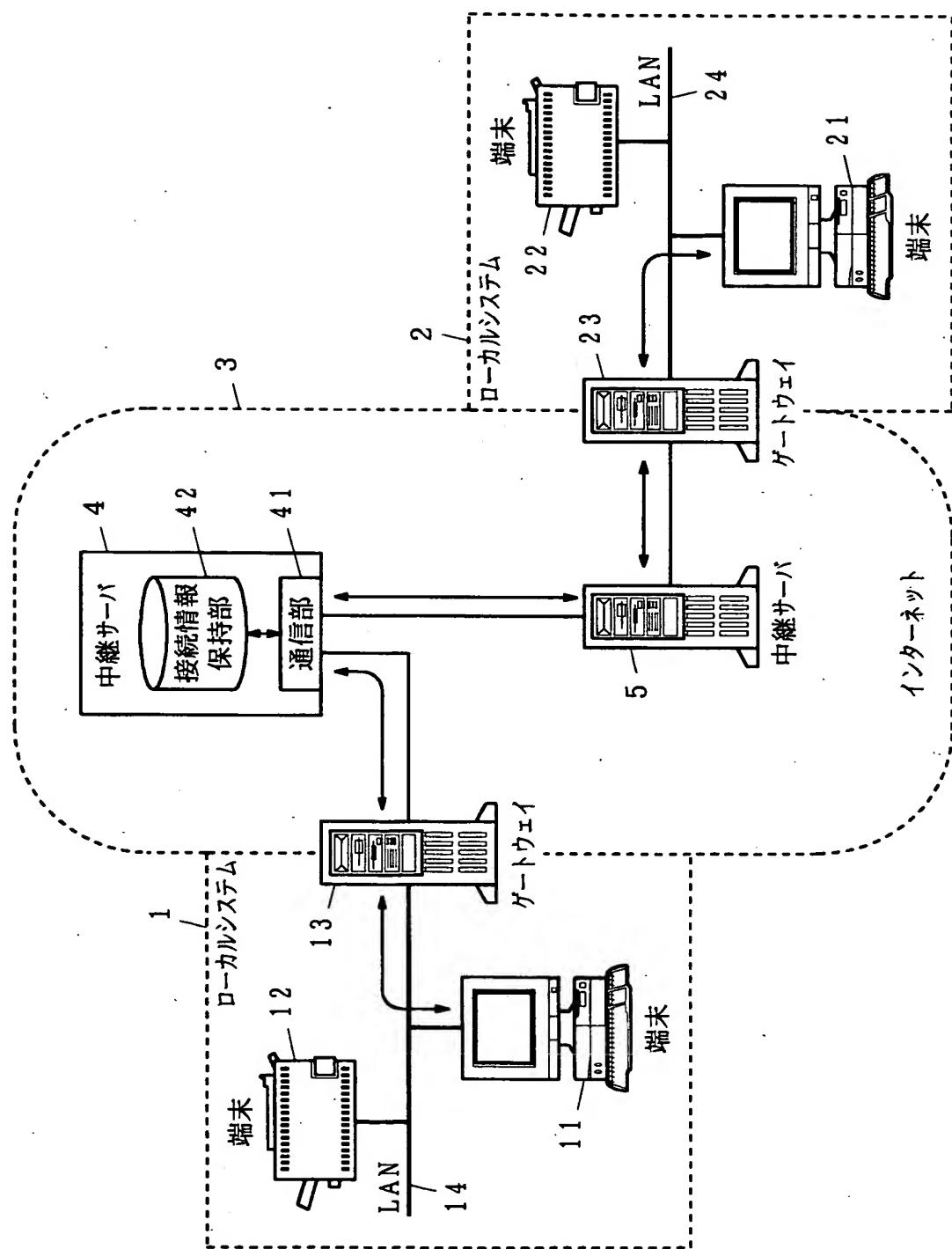
一般的なインターネットを用いたシステムの一例を示す説明図である。

【符号の説明】

1, 2 …ローカルシステム、3 …インターネット、4, 5 …中継サーバ、11, 12, 21, 22 …端末、13, 23 …ゲートウェイ、14, 24 …LAN、41 …通信部、42 …接続情報保持部。

【書類名】 図面

【図1】



特2001-007072

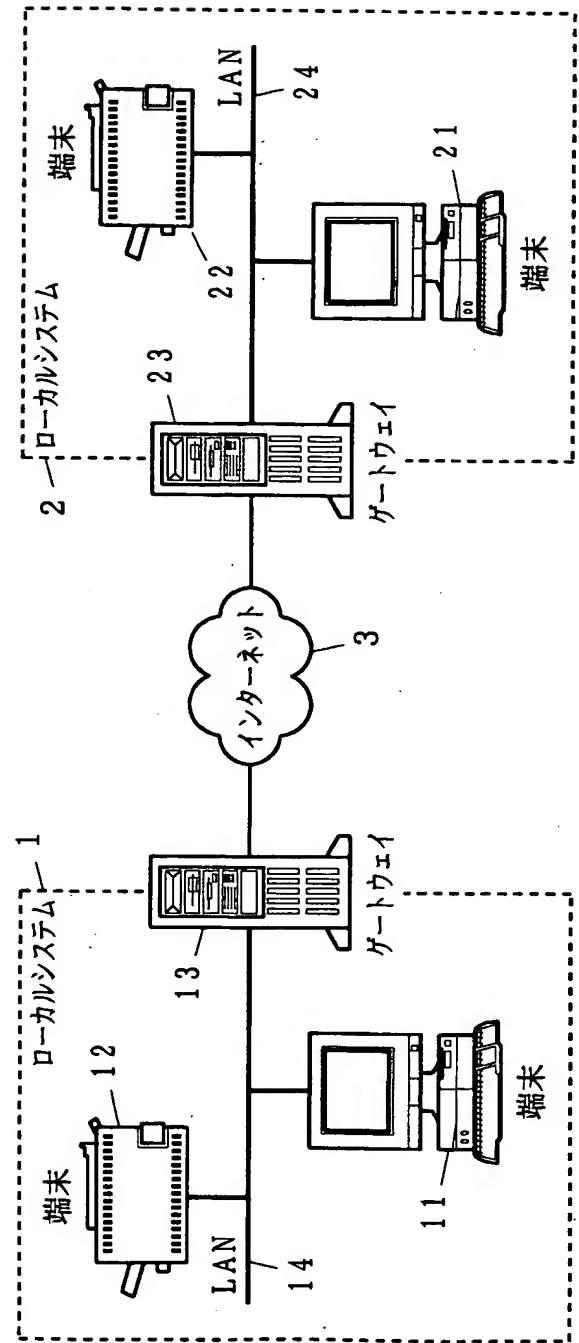
【図2】

サーバ名	IPアドレス	最終更新日時	
server4.xyz.com	200.1.30.12	2000/1/1 12:35:00	
ユーザID	タイプ	属性	状態
a b c	USER	—	logoff
d e f	FAX	FILE TX/RX	logoff

【図3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 異なるローカルシステム内の端末間の接続を複数の中継サーバを介して行うことができる通信システムを提供する。

【解決手段】 端末11は中継サーバ4と接続し、中継サーバ4との通信を可能にしておく。同様に端末21は中継サーバ5と接続し、中継サーバ5との通信を可能にしておく。端末11から端末21への接続要求を中継サーバ4に送ると、中継サーバ4はその接続要求を中継サーバ5に転送し、さらに中継サーバ5は転送された接続要求を端末21に転送して、端末間の通信を可能にする。以後、端末11から中継サーバ4へデータを送信すると、中継サーバ4は中継サーバ5へデータを転送し、中継サーバ5が端末21へデータを送信する。これにより、異なる中継サーバに接続されているローカルシステム内の端末同士で通信を行うことができる。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000006297]

1. 変更年月日 1990年 8月 7日

[変更理由] 新規登録

住 所 京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地
氏 名 村田機械株式会社